



## ○終業式講話「挨拶」

挨拶を国語辞典で調べると、「人と会ったときや別れる時に、儀式的なことばを言ったり、動作をしたりすること」とあります。国語辞典では、挨拶の意味を他にも列挙していますが、もともとは禅宗の問答で相手の修行の度合いを試す「一挨拶(いちあいいつさつ)」という言葉に由来しているそうです。師匠が弟子に声をかけて悟りの深さを測る手段の「一挨拶」が、今では、相手と心をふれ合わせる手段の「挨拶」に変化したとされるかもしれません。



それは、挨拶が、「相手に対する敵意のなさを表し、人間関係を円滑にする効果があるもの」であると同時に、「お互いの人間性なども挨拶を通して判断している」と言えるかもしれません。場合によっては、その人のいる組織や地域などの一次的な判断にもつながっているかもしれません。

出張先や旅先で、早朝や夕方にジョギングをすることがあります。インターハイや特別国体などの出張もあり、コロナ禍の約3年間と違っていろんな地域を訪れる機会が今年がありました。

観光場所でもない日常の生活道路や河川敷などを走っていると、散歩やジョギングする地元の人とすれ違います。旅先の自分が、地元的生活空間に入り込むのは、ある意味不審者と思われても仕方がないかなという思いもあって、自分から「おはようございます」と挨拶をすることに躊躇することがあります。とある挨拶がさかんな地域では、ほとんど空き巣犯罪が起きないと聞いたことがあります。空き巣に入る前、すれ違う人に挨拶されると、自分のことが町の人に知られていると思い、空き巣をやめるのだそうです。逆を言えば、不審者は、挨拶がないところから生まれるということでしょうか。

ちなみに、今年訪れた先で、すれ違う人の多くが、自ら積極的に挨拶されたのが宮崎県でした。3泊4日の滞在でしたが、親近感の沸く場所となり、宮崎のことも大好きになりました。挨拶をしてプラスになることはあっても、マイナスになることはありません。その逆もしかりです。

2学期、3年生の中には、推薦入試などで面接を経験した人が何人もいると思います。面接での入退出の挨拶は、ある意味儀式的なものかもしれませんが、そこには「一挨拶」の言葉のごとく、人間性などが映し出され、そのことも判断されていると思っています。それは練習では養えないものです。普段の生活態度や人間性などが出てくるとしています。

あいさつの標語をよく小学校などで見ます。「あいさつ」を私なりに標語にするとすれば、あ：明るく笑顔で、い：いつでも、さ：さきに、つ：(心を) つたえる・・・でしょうか。

ある小学校の校長先生の言葉が心に残っています。「登校時、子どもたちにおはようと挨拶をするとおまけつきで挨拶を返してくる。おまけとは素敵な笑顔。子どもたちからの挨拶された時、自分は子ども以上のおまけがつけてあげられているか・・・」。そんな私もまだまだです。

今日で2学期が終わります。あと1週間ほどで令和5年も終わります。今年1年をしっかりと振り返り、次の新たな1年・新年につなげてください。みなさんにとって、来年2024年が、素晴らしい年になるためにも、今まで以上にしっかりと学習に取り組んでください。自分を変革するチャンスが冬休み・新年です。冬休みが有意義になることを願い、終業式にあたっての話とします。